



酸素用
パーソナルガスモニター
OX-03
取扱説明書
(PT0-122)

理研計器株式会社

〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6
ホームページ <http://www.rikenkeiki.co.jp/>

1.製品のアウトライン	
1-1 はじめに	2
1-2 使用目的	2
1-3 危険・警告・注意・注記の定義	2
2.安全上、大切なお知らせ	
2-1 危険事項	3
2-2 警告事項	3
2-3 注意事項	4
3.製品の構成	
3-1 本体及び付属品	5
3-2 各部の名称と働き	5
4.使用方法	
4-1 始動準備	7
4-2 電源の入れ方と切り方	8
4-3 エア校正する	9
4-4 検知する	10
4-5 各種情報を見る	11
5.各種動作及び機能	
5-1 ガス警報動作	13
5-2 故障警報動作	14
5-3 データログ機能について	14
6.保守点検	
6-1 点検の頻度と点検項目	15
6-2 ユーザーモード	16
6-3 清掃方法	18
6-4 推奨定期交換部品リスト	18
6-5 フィルタの交換方法	19
7.保管及び廃棄について	
7-1 保管又は長期使用しない場合の処置	20
7-2 再度使用する場合の処置	20
7-3 製品の廃棄	20
8.トラブルシューティング	22
9.製品仕様	23

1. 製品のアウトライン

1-1 はじめに

この度は、酸素用パーソナルガスモニターOX-03 (以後、本器)をご採用下さいまして、誠にありがとうございます。お買い求めの製品型番と本取扱説明書の仕様を照合し、ご確認をお願いします。

本書は本器の取扱方法と仕様を説明したものです。本器を正しくご使用いただくための必要な事項が記載されています。初めてご使用になる方はもちろん、すでにご使用になられたことのある方も、知識や経験を再確認する上で、よくお読みいただき内容を理解した上でご使用願います。

1-2 使用目的

本器は、大気中の酸素を検知する一成分型のガスモニターです。

検知結果により、生命・安全の保障をするものではありません。

1-3 危険・警告・注意・注記の定義

本書では安全かつ効果的な作業が行えるように、次の見出しを使用しています。

危険

この表示は取扱いを誤った場合、「人命、人体又は物に重大な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。

警告

この表示は取扱いを誤った場合、「身体又は物に重大な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。

注意

この表示は取扱いを誤った場合、「身体又は物に軽微な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。

注記

この表示は取り扱い上のアドバイスを意味します。

2. 安全上、大切なお知らせ

2-1 危険事項

危険

防爆に関して

- ・回路・構造等の改造又は変更は、行わないで下さい。
- ・酸素濃度の測定においては、空気と可燃性ガスまたは蒸気との混合物の測定以外に使用しないで下さい。
- ・本器を携帯して危険場所で使用する場合は静電気の帯電による危険防止総合対策として、以下を講じて下さい。

① 使用する衣服は帯電防止作業服、履き物は導電性履き物(帯電防止作業靴)であること

② 屋内での使用に於いては導電性作業床(漏洩抵抗10MΩ以下)の環境であること

となるようにして下さい。

- ・電池を交換する場合は、非危険場所にて行って下さい。
- ・IP保護等級:IP20
人に対する保護内容:指での危険な部分への接近に対して保護されています。

有害な影響を伴う水の侵入:無保護です。

IP20は防爆検定上の保護等級であり、製品出荷時のIP保護等級はIP67相当です。

- ・本器の防爆等級はExiaIICT4Xです。
- ・本器の定格は以下の通りです。
電源 : DC3V 1mA (LR03 株式会社東芝 2本)
周囲温度: -20°C ~ +50°C
- ・電池はLR03(株式会社東芝)を2本使用して下さい。
- ・充電機は使用できません。

2-2 警告事項

警告

周辺空気でのエア調整

- ・エア調整を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行って下さい。雑ガスなどが存在する状態で行うと、正しい調整が行えず、実際にガスが漏洩した場合、危険です。

電池残量の確認

- ・ご使用前に電池残量を確認して下さい。長期間使用しなかった場合は、電池が消耗していることが考えられます。必ず新しい電池に交換してからご使用下さい。
- ・電池電圧低下警報が発せられると、ガス検知を行えなくなります。使用中に発報した場合は、電源を切り電池を交換して下さい。

その他

- ・火中に投げ入れないで下さい。
- ・洗濯機や超音波洗浄機などで本器を洗わないで下さい。
- ・ブザー放音口をふさがないで下さい。警報音が出なくなります。

2. 安全上、大切なお知らせ

2-3 注意事項

注意

油・薬品等がかかるような場所では使用しないで下さい。また故意に水中に沈める様なこと等は避けて下さい

- ・本器に油・薬品など液体がかかるような場所は避けて使用して下さい。
- ・本器はIP67 相当品ですが、耐水圧設計ではありませんので、高い水圧がかかる場所(蛇口、シャワーなど)でのご使用や、水中に長時間沈めることは避けて下さい。尚、本器の防水性能は真水、水道水にのみ対応しており、温水や塩水、洗剤、薬品、汗などには対応していません。
- ・本器を水や泥のたまるような場所に置かないで下さい。このような場所に置くとブザー穴から水や泥が入り故障の原因となることがあります。

温度が-20℃未満又は50℃を超える場所では使用しないで下さい

- ・本器の使用温度範囲は-20～50℃です。使用範囲を超えた高温・高湿、高圧、低温環境下でのご使用は避けて下さい。
- ・直射日光が当たる場所での長時間に渡る使用は極力避けて下さい。
- ・炎天下駐車の内での保管は避けて下さい。

本器の近くでは、トランシーバーを使用しないで下さい

- ・本器の近くでトランシーバー等による電波を放射すると、指示に影響する場合があります。トランシーバー等を使用する場合には影響の出ないところでご使用下さい。
- ・強い電磁波の発生する機器(高周波機器・高電圧機器)の近くでのご使用は避けて下さい。

注意

定期的な点検を必ず行って下さい

- ・本器は保安計器につき、安全確保のために定期的な点検を必ず行って下さい。点検を行わずに使用を続けると、センサの感度に変化し、正確なガス検知を行えません。

その他

- ・むやみにボタンを押すと、各設定が変更されてしまい、警報が正常に作動しないことがあります。本取扱説明書に記載されている以外の操作は行わないで下さい。
- ・落下させたり、衝撃を与えないで下さい。防水性、防爆性、精度の低下を招くことがあります。
- ・センサ及びブザーの開口部を先の尖ったもので突かないで下さい。故障や破損の原因となり、正しい測定ができなくなる可能性があります。
- ・本器は精密機器ですので、強い衝撃や振動を与えないで下さい。

3. 製品の構成

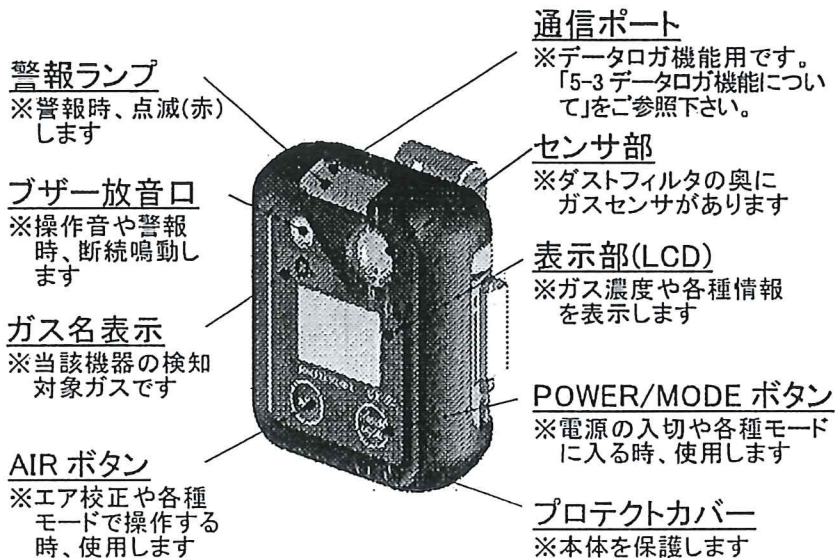
3-1 本体及び付属品

開梱しましたら、内容物が全て揃っているかどうか確認して下さい。

- ・OX-03(本体)
- ・プロテクトカバー(本体に装着済)
- ・ベルトクリップ(本体に装着済)
- ・電池(本体に装着済)
- ・取扱説明書(本書)

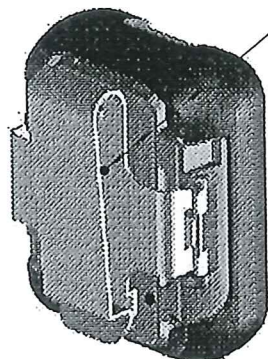
3-2 各部の名称と働き

<外観>



3. 製品の構成

<外観>



ベルトクリップ

※装着する際、ベルトを挟むなどの用途に使用します

電池蓋

※固定ねじを緩めると蓋を外すことができます

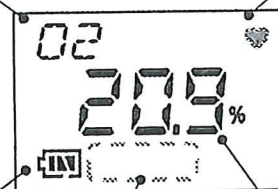
<表示部>

ガス名および情報表示

※当該機器の検知対象ガスやモード等の各種情報を表示します

動作表示

※正常時、ハートマークが点滅します



電池残量表示

※電池の残量をマークの個数で表示します

ガス濃度表示

※現在の検知結果を表示します

情報表示

※ディスプレイモード等で各種情報を表示します。通常は何も表示されていません。

4. 使用方法

4-1 始動準備

ご使用になる前に、次の注意事項をお守り下さい。これらを守らないと、正しい動作が出来ません。

- ・電池が装着されていることを確認して下さい
- ・ダストフィルタが汚れていないことを確認して下さい。
- ・本体に破損がないことを確認して下さい。

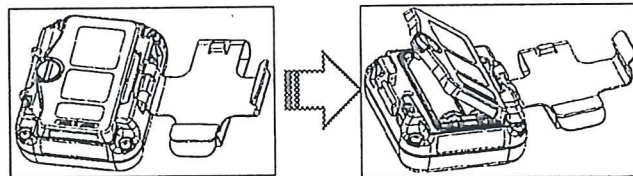
<電池を装着する>

注意

- ・電池を交換する際は、必ず本器の電源を切ってから行って下さい。
- ・交換する電池は、2本とも新しい電池を使用して下さい。
- ・電池を装着する際は、極性に注意して下さい。
- ・指定以外の電池を使用しないで下さい。
- ・電池を交換する場合は、非危険場所にて行って下さい。

- ①電源が切れていることを確認します。
- ②電池蓋固定ねじを緩め、電池蓋を開けます。

- ③古い電池を取り出し、電池の極性に注意して新しい電池を入れます。
- ④電池蓋を閉め、固定ねじを締め付けます。



※クリップを開く

※電池蓋を開く

4. 使用方法

4-2 電源の入れ方と切り方

<電源の入れ方>

ブザーがピッと鳴るまで、[POWER]ボタンを押します。LCD 表示が以下のように切り替わった後、検知モードになります。

『全点灯』→『日時』→『電池電圧』→『検知範囲』
→『第一ガス警報設定値』→『第二ガス警報設定値』
→『検知モード』(ピッピッ)

注記

- 初めて電源を入れるとき、又は電池交換の際など、電池が外れた状態で5分間以上放置した後に、電源を入れたとき、時刻合わせモードになります。その場合、「6-2-1 時刻合わせ」を参照して、日時を合わせて下さい。

注記

- 本器と別の機器の通信ポートを向い合せて、電源を入れた場合、不意に通信モード『TRANS PC』に入ることがあります。その時は一旦電源を切り、電源を入れ直して下さい。その際、通信ポートが向かい合わないようして下さい。

<電源の切り方>

『TURN～OFF』表示からブザーがピッピッピッと3回鳴り、LCD が消えるまで、[POWER]ボタンを押します。

4. 使用方法

4-3 エア校正する

警告

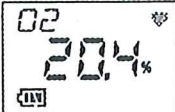
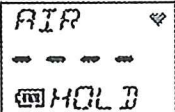
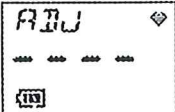

エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行って下さい。雑ガスなどが存在する状態で行うと、正しい調整が行えず、実際にガスが漏洩した場合、危険です。

注意

- ・エア校正は、使用環境に近い状態の圧力、温湿度条件下かつ新鮮な空気中で行って下さい。
- ・エア校正は指示が安定してから行って下さい。
- ・保管場所と使用場所の温度が15℃以上急変するような場合、電源を入れた状態で使用場所と同様の環境下にて10分程度馴染ませ、新鮮な大気中でエア校正を実施してから使用して下さい。

注記

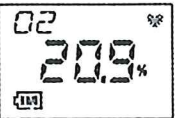

エア校正不良となった場合、『AIR~FAIL』がLCDに表示されます。[POWER/MODE]ボタンを押して、警報(校正不良)を解除します。警報が解除されると、エア校正前の値が表示されます。

項目	LCD	内容
検知モード		※検知モードであることを確認します。
	↓ [AIR]	
『AIR~ HOLD』		※[AIR]ボタンをLCD表示が『AIR~HOLD』(ブザー音、ピッ<1回目>)から『ADJ』(ブザー音、ピッ<2回目>)に遷移するまで押し続け離します。
	↓ [AIR]	
『ADJ』		
	↓	
検知モード へ戻ります		※調整後、自動的に検知モードに戻ります。

4. 使用方法

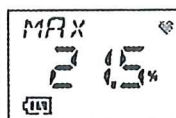
4-5 各種情報を見る

[MODE]ボタンを押すとディスプレイモードに遷移します。[MODE]ボタン押す毎に各種情報を見ることが出来ます。尚、本モード中もバックグラウンドでは、ガス検知していて、検知したガス濃度値が警報設定値を超えた場合、検知モードに自動的に戻ります。

項目	LCD	内容
検知モード	 ↓ [MODE]	
『MIN.』 電源を入れてから、検知した最小の値です	 ↓ [MODE]	※ピーク値をクリアする場合、 [AIR]ボタンを『HOLD』表示 が消えるまで長押しします 表示例: 19.0vol%

『MAX.』

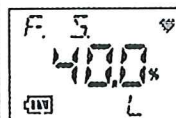
電源を入れてから、検知した最大の値です



↓ [MODE]

『F.S.』

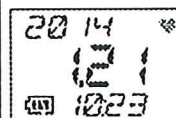
当該機器のフルスケール表示です。



↓ [MODE]

『日時』

内部時計の表示です



↓ [MODE]

検知モードへ
戻ります

表示例: 21.5vol%

※[AIR]ボタンを押す毎に、
F.S.及び WARN,ALARM が
順繰り表示されます。

※L:ガス警報動作 自己保持

表示例: 2014年1月21日
10時23分

注記



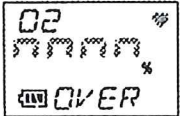
- スイッチ操作が何も無い場合、約 20 秒後、自動的に検知モードへ戻ります。
- スイッチ操作が何も無い場合、約 30 秒後、自動的にバックライトが消灯します(警報時除く)。
- フルスケール表示の時、[AIR]+[MODE]ボタン押下で、警報テストが出来ます。

5. 各種動作及び機能

5-1 ガス警報動作

検知したガス濃度が、警報設定値に達する若しくは未満になると発報します《自己保持動作》。

〈警報動作〉

警報の種類	LCD	作動
WARN (第一ガス警報) 設定値: 19.5%		ブザー: 遅い強弱 ランプ・振動: 遅い断続 表示: 濃度表示点滅 『WARN』表示
ALRM (第二ガス警報) 設定値: 18.0%		ブザー: 早い強弱 ランプ・振動: 早い断続 表示: 濃度表示点滅 『ALRM』表示
OVER (オーバー警報) 設定値: 40.0%		ブザー: 早い強弱 ランプ・振動: 早い断続 表示: 濃度表示点滅 『OVER』表示

〈警報の解除の仕方〉

検知したガス濃度値が警報設定を超えてから、いずれかのボタンを押してガス警報を解除します。

注記

- ・検知したガス濃度が警報設定値を超えていても、いずれかのボタンを押す(解除する)まで、ブザー・ランプ・振動の作動が継続(自己保持)します。
- ・オーバー警報の警報方式は自己保持(『OVER』表示も保持)です。いずれかのボタンを押すことにより、解除することが出来ます。解除の時、ガス濃度値がフルスケール未満の場合、ガス濃度表示に戻ります。フルスケールオーバーの場合、再度オーバー警報となります。

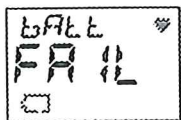
5. 各種動作及び機能

5-2 故障警報動作

本器内での異常動作を検知して故障警報として発報します《自己保持動作》。

原因を究明し適切な対処を行って下さい。
機器に問題があり、故障が頻発する場合は、速やかに弊社にご連絡下さいますようお願いいたします。

〈警報動作〉

警報の種類	LCD(表示例)	作動
電池電圧低下警報		ブザー:断続 ランプ:点滅 振動:なし 表示:内容表示

※故障警報の種類・主な要因・処置の仕方については、「8.トラブルシューティング」をご参照下さい。

5-3 データログ機能について

本器には校正履歴・各種トレンド・イベント履歴のログを記録する機能があります。

データ	インターバルトレンド 1800 データ
ログ仕様	(10 秒間隔 5 時間、5 分間隔 180 時間)
	アラームトレンド 1 件(前後 15 分 5 秒間隔)
	警報イベント 20 件
	故障イベント 20 件
	校正履歴 20 件

本機能をご使用になる場合は、データログマネージメントプログラム(別売)が必要になります。販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせ下さい。

※取扱いの詳細は「データログマネージメントプログラム」の取扱説明書をご参照下さい。

6. 保守点検

本器は防災・保安上重要な計器です。
本器の性能を維持し、防災・保安上の信頼性を向上するために、定期的な保守・点検を実施して下さい。

販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせ下さい。

6-1 点検の頻度と点検項目

定期点検は、お客様の使用環境に関連する法令などまたは弊社が定める頻度、いずれか短い方の頻度で行って下さい。

- ・日常点検：作業前に点検を行って下さい。
- ・1ヶ月点検：1ヶ月に1回、警報テストを行って下さい。
- ・定期点検：保安機器としての性能を維持する為、6ヶ月に1回以上の頻度で行って下さい。

点検項目	点検内容	日常点検	1ヶ月点検	定期点検
電池残量	電池残量が十分であること	○	○	○
濃度表示	新鮮な空気中で、濃度表示値がゼロであること	○	○	○
フィルタ	ダストフィルタに汚れ・破損が無いこと	○	○	○
警報テスト	警報テスト機能を使用し、警報ランプおよびブザーが正常に作動すること	—	○	○
ガス感度校正	校正用ガスを用いて感度校正を行って下さい	—	—	○
ガス警報	校正用ガスを用い、正常にガス警報を発すること	—	—	○

6. 保守点検

6-2 ユーザーモード

ユーザーモードは、時刻合わせなどの保守を行うとき使用します。

電源オフの状態から[AIR]ボタンを押しながら、[POWER]ボタンを押して、ブザーがピッと鳴ったら離して下さい。ユーザーモードに入ります。[AIR]ボタンを押して、メニューを選択して下さい。

警告

調整が終了したら検知モードに必ず戻して下さい。
(ユーザーモードにて放置した場合、自動的に検知モードに戻りません。)

注記

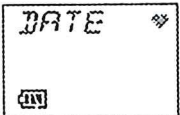
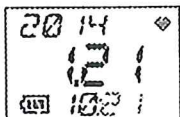
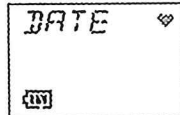
誤って他のモードに入ってしまった場合、一旦電源を切り、最初からやり直して下さい。

項目	LCD	内容
『DATE』 日時の設定		6-2-1 時刻合わせへ
『ROM』 プログラム番号表示		※プログラム番号などを表示しますが、お客様においてはご使用になれません。
『START』 起動開始		※[POWER]ボタンを押し、起動後、検知モードへ戻ります。

6. 保守点検

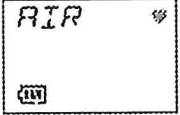
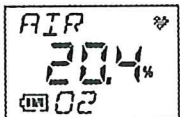

6-2-1 時刻合わせ

内部時計の日時設定を行います。

項目	LCD	内容
『DATE』		
↓ [POWER]		
『日時』		<p>※点滅している箇所を[AIR]ボタンで変更し、[POWER]ボタンで確定します。</p> <p>年→月→日→時→分の順で、分を確定した時点から、スタートします。</p>
↓		
『DATE』		<p>※分を確定後、ユーザーモードメニューへ戻ります。</p>

6-2-2 エア校正

新鮮な大気エアで、校正を行います。

項目	LCD	内容
『AIR』		
↓ [POWER]		
『ガス濃度表示』		<p>※[AIR]ボタンをLCD表示が『AIR~HOLD』(ブザー音、ピック1回目)から『ADJ』(ブザー音、ピック2回目)に遷移するまで押し続け離します。</p>
↓		
『AIR』		<p>※自動調整され『END』表示後、ユーザーモードメニューへ戻ります。</p>

6. 保守点検

6-2-3 ガス校正

校正ガスによるガス校正は、6ヶ月に一度は行って下さい。ガス校正を行うには専用の器具や校正ガスの作製が必要になります。ガス校正は、販売店又は最寄りの弊社営業所までご依頼下さい。

注記

・センサの保証は、ご購入後一年です。

6-3 清掃方法

本器が著しく汚れていた場合は清掃を行って下さい。清掃は電源をOFFにした状態で、ウエスなどで汚れを拭き取って下さい。

水拭きや有機溶剤を使用しての清掃は故障の原因となりますので止めて下さい。

6-4 推奨定期交換部品リスト

名称	点検周期	交換周期	数量 (個/台)	備考
ガスセンサ	6ヶ月	1年	1	※
パッキン類	—	2年	1式	※
防水フィルタ	使用前後	6ヶ月又は汚れた場合	1	4123-6394-40

※部品交換後に専門のサービス員による動作確認が必要です。機器の安定動作と安全上、専門のサービス員にお任せ願います。販売店または最寄りの弊社営業所までご依頼下さい。

注記

上記の交換周期は目安であり、使用条件によって異なる場合があります。また、保証期間を表すものではありません。交換時期は日常点検・定期点検の結果により変動することがあります。

6. 保守点検

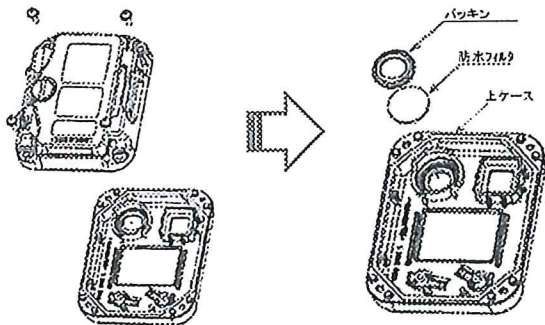
6-5 フィルタの交換方法

フィルタが汚れていた場合は交換を行って下さい。手順は以下の通りです。

注意

フィルタを交換する際、必ず本器の電源を切ってから行って下さい。

- ①電源が切れていることを確認します。
- ②プロテクトカバーを外します。
- ③表示部を下にして、ねじ4本を外します。



④ケースを開けます。

⑤下図を参考に、パッキン、フィルタを外し、フィルタを新しいものに交換します。

注意

パッキンを組み込む際、向きにご注意下さい。右図を参照下さい。



⑥交換後、ケースを元に戻しねじを締めて下さい。

注意

ケースを組み立てる際、ケース周りのパッキンに異物を挟み込まない様、注意して下さい。

⑦プロテクトカバーを取り付けます。

7. 保管及び廃棄について

7-1 保管又は長期使用しない場合の処置

本器は下記の環境条件内で保管して下さい。

①常温、常湿、直射日光の当たらない暗所

②ガス、溶剤、蒸気などの発生しない場所

製品を収納してあった梱包箱がある場合は、それに入れて保管して下さい。梱包箱がない場合は、ほこり等を避けて保管して下さい。

注意

長期間使用しない場合は、乾電池を抜いて保管して下さい。電池の液漏れにより、火災、ケガなどの原因となる場合があります。

7-2 再度使用する場合の処置

停止保管後、再度使用する場合は必ずガス校正を行って下さい。ガス校正を含めて、再調整は、販売店または最寄りの弊社営業所までご依頼下さい。

7-3 製品の廃棄

本器を廃棄する際は、産業廃棄物(不燃物)として地域の法令などに従い、適切な処理をして下さい。

<電池の廃棄について>

・EU加盟各国内で、本器を廃棄する際は電池を分別して下さい。取り外した電池については、EU加盟各国内の法令などに従い、各地域の分別収集システムやリサイクル制度に従い、適切な処理をして下さい。廃棄する際は、お近くの販売店又は最寄りの弊社営業所までご連絡下さい。

7. 保管及び廃棄について

内蔵電池の取り外し方

「4-1.始動準備」を参照し、取り外して下さい。

内蔵電池について

種類
アルカリ乾電池

注記

- ・本器は、電池を内蔵しています。
- ・クロスアウトリサイクルダストビンマークについて



このシンボルマークは、EU電池指令 2006/66/ECに該当する電池を内蔵している製品に表示されており、電池を適切な方法で廃棄していただく必要があります。このシンボルマークは、電池を廃棄する際に一般ゴミとは分別して処理する必要があることを意味しています。

8. トラブルシューティング

このトラブルシューティングは、本器の全ての不具合の原因を示した物ではありません。よく起りえる不具合の原因究明の手助けとなるものを簡単に示してあります。ここに記載のない症状や、対策を行っても復旧しない場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡願います。

症状	要因	処置
システム異常 『SYSTEM FAIL』	本体回路に異常がある	販売店または最寄りの弊社営業所まで修理をご依頼下さい
センサ異常 『SENSOR FAIL』	センサが故障している	販売店または最寄りの弊社営業所まで修理をご依頼下さい

電池電圧低下警報が表示されている 『BATTERY FAIL』	電池残量がなくなっている	電源を切り、非危険場所で新品の乾電池に交換して下さい
エア調整ができない 『AIR FAIL』	本器の周囲に新鮮な空気を供給していない	新鮮な空気を供給して下さい
時計異常 『CLOCK FAIL』	内部の時計異常 電池を外した(又は電池が切れた)状態で長時間放置された	日時設定を行って下さい。尚、頻繁にこのような症状が起る場合は、内部時計の故障が考えられます

9. 製品仕様

<国内仕様>

検知原理	隔膜ガルバニ電池式
検知対象ガス	O ₂
濃度表示	LCD デジタル表示(7セグメント+記号)
検知範囲	0~40.0%
表示分解能	0.1%
検知方式	拡散式
警報設定値	19.5%(WARN)/18.0%(ALRM)/40%(OVER)
各種表示	電池残量表示/動作表示
応答時間(同一条件下)	90%応答 20秒以内
ガス警報タイプ	2段警報/OVER
ガス警報表示	ランプ点滅/ブザー断続/ガス濃度表示点滅/振動
ガス警報動作	自己保持(正常復帰後リセットにて解除)
故障警報・自己診断	システム異常/センサ接続異常/電池電圧低下/校正不良/時計異常
故障警報表示	ランプ点滅/ブザー断続/内容表示

各種機能	LCD バックライト/ピーク表示/データログ
電源※1	単4形アルカリ乾電池 2本
連続使用時間	約 3000時間(25℃ 無警報無照明、アルカリ乾電池)
使用温度範囲	-20~50℃
使用湿度範囲	0~95%RH 以下(結露なきこと)
防爆構造	本質安全防爆構造
防爆等級	Exia II CT4X(TIIS)
保護等級	IP67 相当品
外形寸法	約 54(W)×67(H)×24(D)mm(突起部は除く)
質量	約 80g(クリップを除く)

※1 防爆性能要件を満たす為に、防爆構造電気機械器具型式検定合格証に記載の乾電池をご使用下さい。